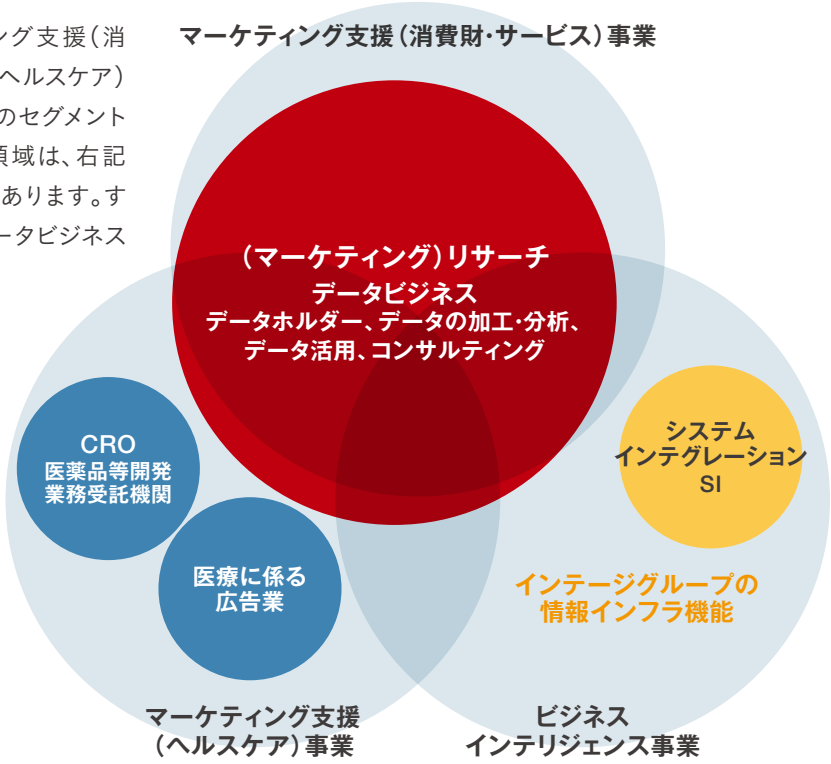
インテージグループの事業

インテージグループの事業領域

インテージグループの事業は『マーケティング支援（消費財・サービス）事業』『マーケティング支援（ヘルスケア）事業』『ビジネスインテリジェンス事業』の3つのセグメントで構成されています。グループにおける事業領域は、右記図のようにセグメント間を横断しているものがあります。すべてのセグメントにおいてリサーチならびにデータビジネスをコアとしながら、ヘルスケアにおいてはCROおよび広告業を、ビジネスインテリジェンスにおいてはシステムインテグレータならびにグループ全体の情報インフラを担う機能を持っています。



パネル調査 インテージグループならではの強み

パネル調査とは、一定数のモニター（消費者や店舗など）を確保し、モニターから定期的に情報を収集する仕組みを構築し、お客様に定期的に調査データを提供する調査のことです。インテージグループは1960年の創業当初からこのパネル調査を開始しており、その種類、規模、品目の拡張や、速報性の向上など度重なるリニューアル等を行い、現在でも当社グループの大きな柱となっています。市場実態を正しく捉えたデータとして、お客様（当社グループでは主に消費財メーカー）から高い信頼を得ており、デファクトスタンダードとしてマーケティングに活用されています。

SCI INTAGE Consumer Panel

全国消費者パネル調査

どんな世帯・個人が、何をどこで、いくらで買っているのか

全国の15～79歳の男女5万3,600人を対象に、屋内外で消費する食品、飲料、日用雑貨品などの購買データを専用スキャナーやスマートフォンのアプリを利用して収集。消費者の購買行動を詳細に捉えた高品質なデータを基に、インサイトを提供する日本最大の消費者パネルです。

SRI+

全国小売店パネル調査

いつ、どこで、どんなものが、いくらで売れているのか

スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、専門店など全国の主要小売店約6,000店舗を対象に、食品、飲料、日用雑貨品、一般用医薬品などさまざまなPOSデータを収集。各業界標準のインデックスとして、この分野で圧倒的な強さを誇っています。

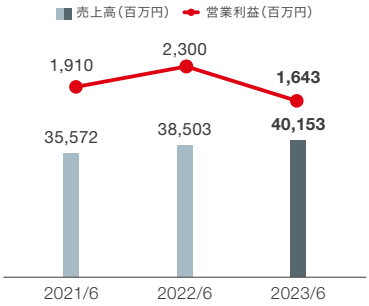
マーケティング支援（消費財・サービス）事業

事業概要

株式会社インテージを中心に企業のマーケティングリサーチ活動をサポートしています。マーケティングリサーチは、企業のあらゆるマーケティング課題に対して、有効な意思決定をサポートするための科学的な調査・分析のことを指します。

当事業では、当社が独自に収集した生活者の購買や小売店の販売データを基にした主力商品“パネル調査”が消費財メーカー約400社に導入されているほか、パネルデータやさまざまな調査手法と独自の分析力をベースに分析・加工を行い、当社独自のインサイトを提供する“カスタムリサーチ”は消費財に限らずさまざまなメーカーに利用されています。

売上高・営業利益



檜垣　歩
取締役 マーケティング支援（消費財・サービス）国内事業担当

主なお客様　消費財（食品・飲料・日用雑貨品）メーカー／耐久消費財（自動車・家電・アパレルなど）メーカー／金融／通信／広告／IT／官公庁　など

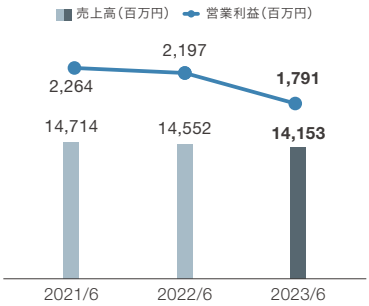
マーケティング支援（ヘルスケア）事業

事業概要

株式会社インテージヘルスケアを中心に、製薬企業に対して、マーケティングリサーチ活動のサポート、CRO（医薬品開発業務受託機関）、プロモーション、処方情報分析などを提供しています。

一般用医薬品に関し、薬局やドラッグストアなどの小売店データおよび購買履歴を取得した消費者データに加え、カスタムリサーチを提供。また、医療用医薬品についても、医師の薬物治療・処方実態調査、医療消費者・患者の実態調査を始め、医薬品のプロモーション活動評価など豊富なソリューションやツールで製薬企業をサポートしています。

売上高・営業利益



村井　啓太
上席執行役員 マーケティング支援（ヘルスケア）事業担当

主なお客様　製薬（一般用医薬品、医療用医薬品）企業／医療機器メーカーなど

ビジネスインテリジェンス事業

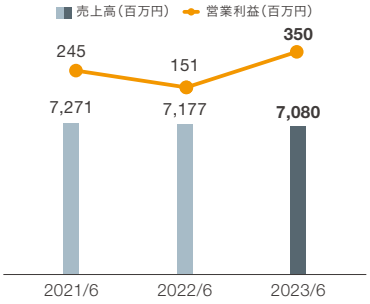
事業概要

株式会社インテージテクノスフィアを中心に、システムの開発・運用、BPO、データセンター運用、業界別ソリューションを提供しています。

近年は長年データに関わるビジネスを行ってきた強みを活かして、企業のDX支援をAIやデータハンドリングによりサポートしています。

また、インテージグループ全体に対し、インフラ構築・運用・保守およびビジネス推進を支えるソフト領域での支援などIT面で支えています。

売上高・営業利益



酒井　和子
執行役員 CIO、ビジネスインテリジェンス事業担当

主なお客様　製薬企業／運輸／旅行、観光／出版／その他（業種を問わない健康管理サービスの提供）